

大橋川通信

嫁ヶ島に並ぶ如泥石

大橋川改修情報紙

<大橋川通信リニューアル>

大橋川通信のデザインを新しくしました。
これまでの情報に加え、大橋川改修に関する動きをお届けします。

大橋川改修では「治水と環境とまちづくりの調和」を目指し委員会や懇談会を設置して
専門家や市民の代表の方で様々な角度から議論を進めています



大橋川通信リニューアル企画

インタビュー特集

大橋川周辺まちづくり検討委員会の委員の方や、大橋川周辺のまちづくりに対してアイデアをお持ちの方々を中心に話をしようかしています。

一回目は、大橋川周辺まちづくり検討委員会の委員である木幡修介氏に松江の文化遺産である如泥石(じよをいし)についてお話をうかがいました。

4ヶ月の動き

- 4/18 「第8回景観専門委員会」
堤防イメージを検討
- 5/20 「第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会」
公共施設配置パターンを検討
- 6/13 「第1回大橋川改修技術検討懇談会」
大橋川改修の今後の進め方について検討
- 7/5 「市民のみなさまに意見を述べていただく」
応募者15名が意見発表 次号でご紹介します
- 7/8 「第9回景観専門委員会」 **特集記事**
イメージパースと模型を提示
- 7/18 「第2回大橋川改修技術検討懇談会」 次号でご紹介します
大橋川の整備の進め方について検討
- ◆ 大橋川改修環境調査は一次とりまとめが終了し、
閲覧・意見照会を行い最終取りまとめをしているところです。

※委員会資料・イメージパース・模型は、大橋川コミュニティセンターでご覧いただけます。

特集

景観専門委員会

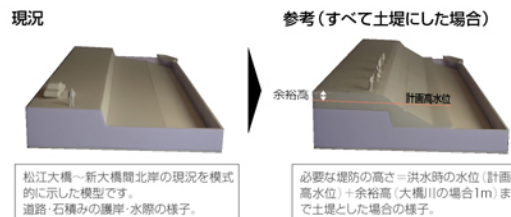
「大橋川改修」後の姿 イメージパースと模型で提示

第9回景観専門委員会 ◆7月8日(火) / くにびきメッセ **イメージパースと模型を提示**

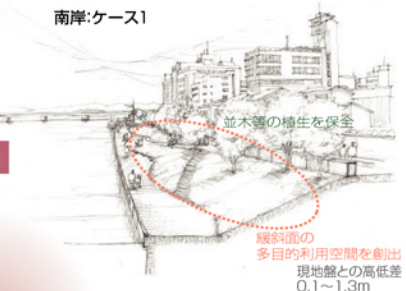
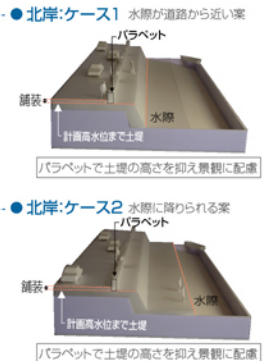
【目的】
第8回委員会ですした「景観に配慮した堤防形状」(断面図)の中から複数案についてイメージパースを描き、上流部の一部は模型で高さ関係を示すなど、イメージしやすい資料で議論しました。

【提示した主な内容】
・区間毎のイメージパース(14案)
・松江大橋～新大橋間<北岸>の模型(実際の50分の1)

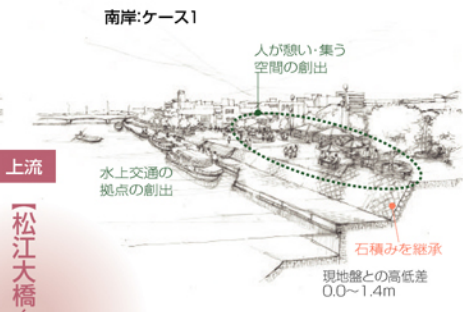
【委員の主な発言】
・上流北岸は、所々水辺に降りられるのもよい。
・源助公園は現在の雰囲気を残したい。
・松江大橋下流の南岸は、合同汽船があったことから船着き場としての機能は欲しい。
・中下流は、概ねこのような雰囲気でない。
・まちづくり検討委員会へ提案した後も、住民の方からいろいろな意見を聞いていく時点でフォーラップが重要だと思う。
等、具体的な場所に対する意見もまされた。



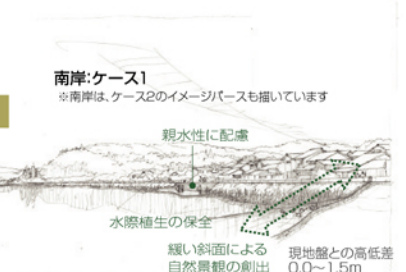
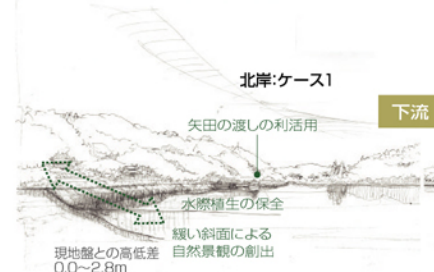
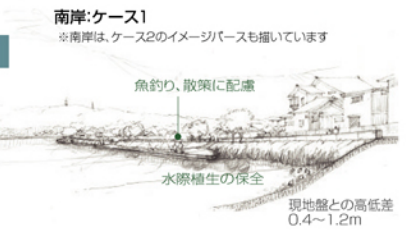
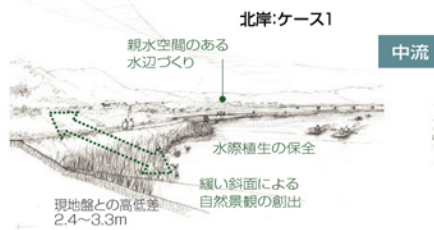
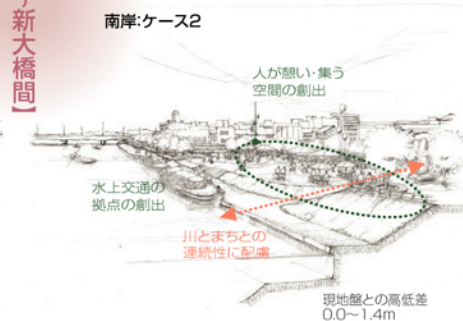
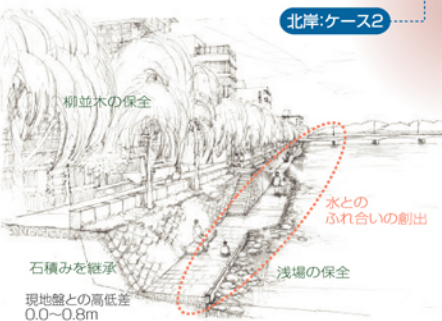
景観に配慮した複数案を提示しました



【新大橋くくにびき大橋間】



【松江大橋く新大橋間】



注意事項

- イメージパースは委員会で意見をいただくための資料で確定したものではありません。
- 背後のまち並みは現状を基に描いています。
- 治水、まちづくりの検討状況により、今後変わる可能性があります。

景観に配慮した複数案を提示

イメージパースや「模型」は大橋川コミュニティーセンターで閲覧になれます

松江の文化遺産

如泥石の復活を

木幡修介氏(大橋川周辺まちづくり検討委員会委員)



今では少なくりましたが、松江藩時代には穴道湖沿岸の護岸を中心に「如泥石(こぼいでいし)」と呼ばれる米待石を彫った石がたくさんありました。一妻伊川流域の水辺を考える懇談会や、大橋川周辺まちづくり検討委員会にて、穴道湖畔や大橋川沿いに如泥石の復活を提唱されている木幡修介氏に、穴道町八雲本陣の自宅を話そうがしました。

如泥石の思い出は—

子供の頃、穴道湖畔の波打ち際に如泥石が並んでいましたが、国道9号が湖畔に整備されて見られなくなりました。夏休みには「なべつ(こ)といつてこねはこ」に似た鉢に「ぬかだん」こを入れ、穴のあいた木綿の布で蓋をして穴道湖に沈め、如泥石の上から眺めていると、鉢が黒くなるほど穴から小魚が入ってきたものです。これを干して「ワトリの餌にするのが子供の頃の私の親孝行で、如泥石は穴道湖で遊ぶ際の基地のよちなものでしたね。

なぜ如泥石というのでしょうか—

湖岸が浸食・浸没されるのを防ぐため、不味公お抱えの名工小林如泥(こぼやしよいでい)という大工が考案し、円筒の米待石に円形の溝を彫ったことから如泥石となったようです。

如泥の読み方については、最近の本の中には「ジョウテイ」と濁らないものもありますが、子供の頃から私は「ジョウテイ」と言っていました。「ナイ」に通るのが本当だと思っています。

如泥石の魅力は—

委員会や懇談会で如泥石の復活を提唱しているのは、「(こぼ)はシンプルなデザインのすばらしさが穴道湖の柔らかな風景によく似合うからです。そして無尽蔵といわれる地産資源、米待石の活用です。

如泥石を見られるところはありますか—

まとまった数が見られるのは、城ヶ島です。彫りの深いまれい如泥石が「列」に並んでいます。芥川龍之介は「松江印書記」の中で城ヶ島について「松江は美的センスがない」とけなしていますが、何故か今こう思っています。当時の「絵はがき」を見ると、島の周囲に大きな如

profile
こわたしゅうすけ氏

松江藩主の本陣宿で、昭和天皇も立ち寄られた国の重要文化財「木幡家住宅」(八雲本陣)の現当主。朝日新聞の記者を経て、郷里の山陰中央新報社では代表取締役社長に就任。現在は取締役相談役を務める。

泥石を一段三段に積み上げざるで城壁のようになっています。芥川に妙なものを見られませんでしたのでね。

如泥石をどのようにしたらよいのでしょうか—

如泥石は松江の文化ですが、松江市民によく知ってもらいたいと思っています。これから出来る松江市歴史資料館にも穴道湖の如泥石を引き揚げて置いてほしいと思っています。

大橋川改修についても、景観専門委員会でも如泥石の活用を、という意見が出ています。ですので、何らかの形で如泥石を活かして頂けたらと期待しています。



穴道町 八雲本陣(やくもほんじん)にて

大橋川コミュニティセンター

【開館日】年中無休(年末年始を除く) 【開館時間】9:30~16:00 (駐車場)5台程度
〒690-0841 松江市向島町1-34-4
TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623
E-mail:comisen@mable.ne.jp
ホームページ:http://www.mable.ne.jp/~comisen



周辺案内図



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と影郷町、国士文庫館出雲川事務所が一体となって管理運営をしています。